



内務省特報



◎内務省告示第二十六號

道路法第二十條第二項ノ規定ニ依リ本大臣ニ於テ新設又ハ改築ヲ爲シタル國道ニシテ工事ノ終了シタルモノ左ノ如シ

昭和十八年一月二十一日

内務大臣 湯澤 三千男

路線名

區

間

工事終了ノ期日

三 號

自大分縣宇佐郡宇佐町
至同縣同郡北馬城村

昭和十八年一月
二十一日

十 號

自山形縣鶴岡市寶町
至同縣同市大字道形

同

二 號

自廣島縣佐伯郡宮内村
至同縣同郡大野村

同

◎各府縣内政部長會議

行政簡素化實施後初の内政部長會議は十四日午前九時より厚生省大會議室に開催、厚生省側よりは小泉厚相、武井次官以下各局長出席、小泉厚相より訓示を行ひ所管行政の全分野をあげて生産増強の一點に總力を結集その綜合的運営を強化すると共に國民

の戰場精神を昂揚し以て必勝倒敵の信念を凝結すべきことを強調したが、引續き人口、衛生、生活局所管事項につき中村、灘尾石井の各局長よりそれ〴〵詳細所信を披瀝正午一旦休憩した、午後は今回會議の最重要たる軍需局を初め保険局、軍事保護院關係の指示事項に移り終つて厚生省行政一般に關し質疑應答所信の開陳あつて散會したが第二日は十五日午前九時から文部省第一會議室で開催、劈頭橋田文相から別項の如き訓示を行ひ、午前は額綱國民教育局長より師範教育令改正に關する件を指示、正午より水交社における嶋田海相の午餐會にのぞみ午後一時再開、午後は中等學校令制定に關し額綱局長より指示を行ひ午後四時會議を終了、ついで首相官邸における「お茶の會」に出席、東條首相より特に訓示あり、午後五時半から丸之内會館における橋田文相の招宴にのぞんだ、なほ十六日は午前九時から同十時半まで文部省で會議を續行午後一時半内務省第一會議室に内務省關係會議を開き劈頭湯澤内相より國內施策の重點を戦力の擴充に集中すべく生産力の増強は眞に刻下喫緊の要務である旨を強調する訓示があり次いで

古井地方局長議長となり指示事項に入り武若神社院庶務課長より神社の振興に關する件を、中島行政課長より地方制度に關する件を指示し同四時半關係會議を終へ引き續き情報局關係會議に入り奥村情報局長の挨拶について加藤第一部長より所管事項に就いて説明があり同五時四十分三日間にわたる會議終了した。

◎各府縣内政部長に對する東條内閣總理大臣の訓話

東條内閣總理大臣は十五日午後四時から首相官邸に道府縣内政部長を招待、お茶の會を開催した。

篠山東京以下三十二名の内政部長をはじめ、陪賓として湯澤内相、山崎内務次官、飯沼神社院副總裁、武井厚生次官、藤原軍事保護院副總裁、主人側東條首相、内閣四長官が出席。

まづ東條總理大臣は大要左のぐとき訓話を行ひ、行政の第一線にある官吏は單に上からの命令を傳へるロボットであつてはならぬ、地方の實情に即した行政の運営に當るべきこと、綜合地方廳たる道府縣の職員は、内務省の地方機關でなく主管省別によつて仕事の上には上下はあつてはならないこと等の諸點を強調したのち、種々懇談して午後五時半散會した。

東條内閣總理大臣訓話

私は始終、先づ官吏が率先して頭を戰時的に切り換へて仕事に當れといふことを強調してゐる、銚後が本當に戰時の頭になり切つて一切の仕事を職場で片づける氣持になつて、當つたならば、

萬事が圓滑に運ばれることを、私は斷言して憚らない。

國內結束の確固不動であることは日本の強味の最たるものである、この食ふか食はれるかの大戰爭に直面して、國內は眞に日本人の自覺に生き、傳統に導かれて戰爭に勝たんがためには言葉通り、一命を投げ出してゐるのである、戰爭に勝つためにはどんな困難もどんな障得も身を以てこれを排除せんとしてゐるのである、この盛り上る方に、軍といはず、官といはず、民といはず、總ての人が、感激し感謝し合つて、彌が上にもこれを強化して行く、これが國內結束強化の根本義である。

行政の第一線ををらるる諸君の仕事振りとして更に氣をつけて戴きたいことは、實情に即した行政をてきばきやつて戴きたいことである、中央からは行政の大方針を示されるが、この大方針を活かすか殺すかは、地方廳における行政運営が地方の特性にびつたり合つて行はれるかどうかにある、上からの號令を下にそのままうけ傳へるだけではどんな無能の人でも出来る、實情に即した號令を擲ける、これが諸君の職責なのである、それには諸君自身が實情にしっかりと觸れてゐることが大切である。

長官の補佐役たる内政部長たる諸君に特に申したいことは、上司の命令、意圖が部下の隅々まで滲透してゐるかどうかを常に見極めることである、軍隊ではこれを特に愷しくいつてゐるのであるが、文官の官廳についても同様でなければならぬと思ふ、特

に戦時下においては然りである。

長官の意圖をよく下僚に徹底させまた懇切にその仕事振りを指導監督して無言の裡に長官の意圖に合する仕事が出来る様にして貰ひたい、それには部下をして、絶えず中間報告をさせることが必要である、これは解り切つたことであるが、なかなかうまく出来ないものである。

往々にして、道府縣廳といふものは何とはなしに内務省の地方機關であるといふ感を持つ向きがなきにしもあらずであるが、主管省別によつて仕事に上下があるわけではない、内務省關係の仕事を重視してそれ以外の省の仕事は第二義的だといふ氣分が、仕事をする氣構への上に知らず識らずの間に現れるが如きことは、萬が一にもあつてはならない。

最後に教育の問題であるが、今回の地方廳の制度改正により學務部の名稱が無くなつたことから、教育を次等扱ひしてゐるのだといふ様な見方をする向があつたとしたならば、思はざるも甚だしいものであつて、大東亞戰爭を勝ち抜き、新しき大東亞を建設するためには、根本の力をなすものは、申すまでもなく人間である、こゝにおいて教育の問題は益々その重要性を増してゐるのである、諸君はこの教育の直接の責任者として、この上共發刺たる意氣を以て教育行政に當つて戴きたい。

◎ 若葉吟社詠草

天地に祈る静けし弓始め	藝
鳩の群の社頭に晴れて霜の杉	淺
朝靄に浮ぶ宮居や國の春	静
霜晴を心静かに弓始め	同
老骨や霸氣漲りて弓始め	静
壯重に澄む青空や弓始め	同
大らかに皇道宣へむ國の春	同
塗り替へし地圖大らけく國の春	落
熱砂踏む軍靴偲びつ國の春	同
賀状なき机上に映へて福壽草	同
○ 竹の園生の彌榮に拜し國の春	野
御稜威仰ぐ感激の淚國の春	狐
國の春み民一億はり切りて	禪
四面海を遶らして晴れぬ國の春	同
絡繹と拜賀の車馬や國の春	同